
第27章 礼典

27. 1. 礼典は、恵み契約の聖なるしるしであり、印証です（ロマ 4:11、創 17:7, 10）。それは神が直接制定なさり（マタイ 28:19、1 コリント 11:23）、キリストとその恩寵を表わし、その中で、私たちが受けた有益を確認させ（1 コリント 10:16、11:25、26、ガラテヤ 3:27、17）、また教会に属する者と、世に属している者との間に見える区別をつけ（ロマ 15:8、出 12:48、創 34:14）、キリスト者たちに神のみことばに従って、キリストにあって神を礼拝することに厳粛に参加させます（ロマ 6:3, 4、1 コリント 10:16, 21）。

礼典は、福音と恵み契約のしるし（sign）であり、印証（seal）です。礼典は4つの機能をします。キリストの救いの働きを指していて、キリストと私たちの関係を現わしています。キリストが頭となることを見せてくださるから、その民が献身しなければならないことと、礼拝しなければならないことを表しています。礼典について誤り等があります。ソッチーニ主義者は、礼典をキリストと弟子たちと他の人々を区別させる垂れ幕の意味として見ていて、再洗礼派は、礼典を恵み契約のしるしとして見ていません。一方で、ローマカトリック教会とルター教会は、しるしと恵みの間を同一なものとして見ながら、しるしが意味する象徴性を見ないのです。それで、ローマカトリック教会は、洗礼を新生

として主張します。

27. 2. すべての礼典には、見えるしるしと、それが表わす実体との間に霊的關係、あるいは、礼典的結合があります。それで、しるしの名称と効果などは、実体に起因します（創 17:10、マタイ 26:27, 28、テトス 3:5）。

礼典を制定された目的は、新しい契約の恩恵などを信者たちに適用させることです。

27. 3. 礼典が正しく執行される時、現れる恵みが、それらの中にある、何かの力によって与えられるのではありません。礼典の効力は、それを執行する者の敬虔、あるいは意図によるのでもなく（ロマ 2:28, 29、I ペテロ 3:21）、聖霊の働きと（マタイ 3:11、I コリント 12:13）、礼典制定のみことばにかかっています。それは礼典を執行するに権限を付与した戒めと共に、相応しい陪餐者に対する有益の約束を含めます（マタイ 26:27, 28、28:19, 20）。

礼典自体が救いの恵みを与えることはありません。礼典の効力は、聖霊の働きと礼典の時に語られるみことばにかかっています。しかし、ローマカトリック教会は、礼典自体が効力を与えると主張します。そして、礼典を執行する司祭の意図が根本的に影響を及ぶと主張します。それは誤りです。また、ルター主義者たちは、礼典が、直接的に義認とする有効な原因になると主張します。間違った教えです。そして、ドナティス主義者と再洗礼派は、礼典が不敬虔な者によって執行されたなら、効力がないと主張しますが、誤りです。

27.4. 福音のうちに、私たちの主キリストが定められた礼典は、ただ二つですが、洗礼と主の聖餐です。礼典は、合法的に按手を受けた、みことばの教役者以外のだれによっても執行することはできません（マタイ 28:19、I コリント 11:20, 23、I コリント 4:1、ヘブル 5:4）。

改革教会での礼典は、ただ二つとして、洗礼と主の聖餐です。しかし、ローマカトリック教会は、7つの礼典を主張して、場合によっては、一般信徒が洗礼を授けられると主張します。

27.5. 霊的実体と表象されることと関連して、旧約の礼典は、実質的に新約の礼典と同一です（I コリント 10:1-4）。

旧約の礼典は、割礼と過越祭です。割礼は洗礼として、過越祭は聖餐として置き換えられました。旧約の礼典は、将来に来られるキリストを現し、新約の礼典は、すでに来られたキリストを現します。